

ふるさとに何か出来るように、今は力をつける時

赤武酒造株式会社で、日本酒造りに取り組む古館龍之介さん。代表を務める父、秀峰さんのもと、新しい銘柄、「AKABU」を造り上げました。その味わいは東京の飲食店でも評価を受け、売り上げを伸ばしています。高校生まで大榎で育った古館さんは、「いつか大榎の町で何かできたらという思いはずっとあります。そのためにも、今はこのお酒をもっといいものにして、もっと力をつけていきたい。そのために努力しています」と故郷への思いを語ります。「震災の時は大学で町を離れていて、そのまま盛岡で酒造りをしていますが、住んでいた頃の風景が、今も浮かんできます」と懐かしんでいました。

赤武酒造(株) 専務 杜氏 ^{ふる だて} 古館 ^{りゅうの すけ} 龍之介 さん



ふるさとで つながる

盛岡市を訪ねた大榎学園の8年生たち。「大榎代表」としての生徒たちの想いと、盛岡で働く先輩方のふるさとへの想いが、繋がりました。



〈職場訪問先〉
岩手県庁、赤武酒造、岩手大学、岩手銀行、北日本ヘア・スタイリストカレッジ、岩手医科大学附属病院、IBC 岩手放送

大榎のなまりを聞くと、一気に安心します

IBC岩手放送営業本部に勤める阿部将貴さん。スポンサー対応や、広告などの営業の仕事をしています。テレビが好きで、この仕事を選んだという阿部さんは、生徒さん達が希望して訪問してくれた事が嬉しかったと語り、「真剣な質問が多く、本気度を感じて、応援したいと素直に思いました」と笑顔を見せます。今でも大榎にはしばしば足を運ぶそうで、なまりを聞くと一気に安心するそうです。「大榎のために何か、自分が主となってイベントを企画するのが目標の一つです。目の前の仕事を頑張ることで、いつかそこにつながると思っています」「IBCは歴史ある会社で、地域に寄り添った放送局です。大榎はもちろん、岩手の人たちのために、責任のある仕事だと思って頑張っていきたいです」

(株)IBC岩手放送 営業本部 ^{あ べ} 阿部 ^{まさ 貴} 将貴 さん



大榎に派遣される人を出身者の立場で支えたい

県庁職員の佐藤さんは、震災後、派遣職員として地元大榎町で勤務しました。「実家があるので、親戚や知り合いの中でのつながりは元々ありましたが、広く町民の方々と関わったことで、ふるさとへの思いは強くなりました」今回、生徒の受け入れ先の繋ぎ役となって下さった佐藤さんは、「出身者の思いや行動は人それぞれですが、今回の件を打診した時、『何かしたかったけどようやく役に立てる』と言ってくれた人もいた。みんな子どもたちが将来を考える上で力になればと協力してくれました」と話します。「県庁では、大榎出身者で『派遣職員を送る会』を企画しています。出身者として、大榎に行ってくれる人を支えたいと思い始めました。同時に、我々が集まってふるさとを想う機会の一つになればとも思っています」

岩手県 農林水産部 流通課 ^{さとう} 佐藤 ^{たつ や} 達哉 さん



大榎を担う子どもたちの土台作りになる仕事を

県教育委員会の藤原さんは、訪問の印象を「自分達の頃にあった堤防の裏や空き地、公園などで遊ぶ存分遊べなかったであろう子どもたちを正直心配しながら迎えました。ところが、皆さんとても元気で、一生懸命質問しているのを見てすごく安心しました」と話します。ふるさとへの思いについては「スポーツや文化、学術面で活躍のニュースを聞くと、すごく嬉しい。盛岡のイベントに足を運んだり、現地の取り組みを支えたいと思っています」「小さい頃から見てきた郷土芸能が、大人になって違う土地で目にしても、やはり素晴らしいものだ、と最近痛感します。ぜひ傳承して行ってほしいし、担い手となる子どもたちや町を背負って立つ若者たちの土台作りになるような仕事をしていきたい」と語りました。

岩手県 教育委員会 事務局 ^{ふじ 原} 藤原 ^{たつ や} 竜也 さん



1 未知の世界、酒蔵見学 2 県庁で学ぶ「ラグビーワールドカップ」
3 販売研修で地元をPR 4 テレビのスタジオで記念撮影

町出身者を職場訪問

8月29日～30日、大榎学園8年生の生徒たちが、宿泊研修を行い、盛岡市に住む人達への特産品の販売研修や、市内で働く大榎町出身者の職場訪問を実施しました。自身の進路学習はもろんのこと、大榎出身者とのふれあいを通じて、ふるさとを愛する気持ちをさらに深めることを目的に行われた今回の職場訪問。生徒たちは、「大榎代表」というスローガンを掲げ、希望する職場計7か所を訪ねました。訪問に協力してくれたのは、製造業やサービス業、事務職など様々な舞台で活躍する町出身者の方々。大榎学園の依頼に対し、「ふるさとの子どもたちのために」と快く体験の場を提供してくれました。特産品の販売研修では、盛岡市に住み、広報おつちを購読している人に、あらかじめ子どもたちからお知らせを郵送。手紙を受け取った方々を含め多くの人が訪れ、地元の特産品に行列ができました。